

HITACHI

Reliable Solutions

2024年3月期第3四半期 決算説明会

2024年1月26日

 **日立建機株式会社**

執行役常務兼CFO 塩嶋 慶一郎

執行役常務兼CMO 松井 英彦

このたびの「令和6年能登半島地震」により、お亡くなりになられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された地域の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

1. 地域別市場環境と見通しについて

執行役常務兼CMO

松井 英彦

地域別市場環境と見通しについて、松井よりご説明します。

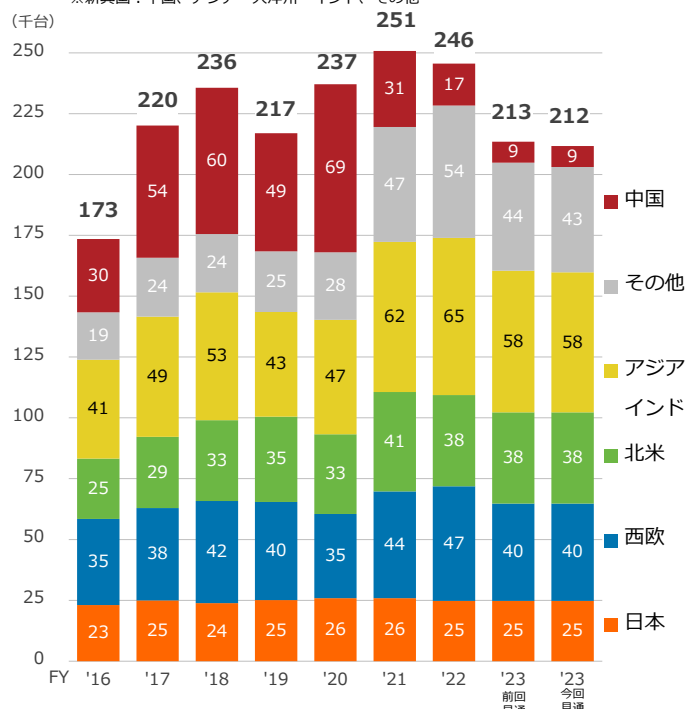
油圧ショベル世界需要推移

HITACHI

Reliable Solutions

新興国比率：23年度 52%（前年比△4%）

※新興国：中国、アジア・大洋州・インド、その他



* 需要は日立建機の推定値

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

3

地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

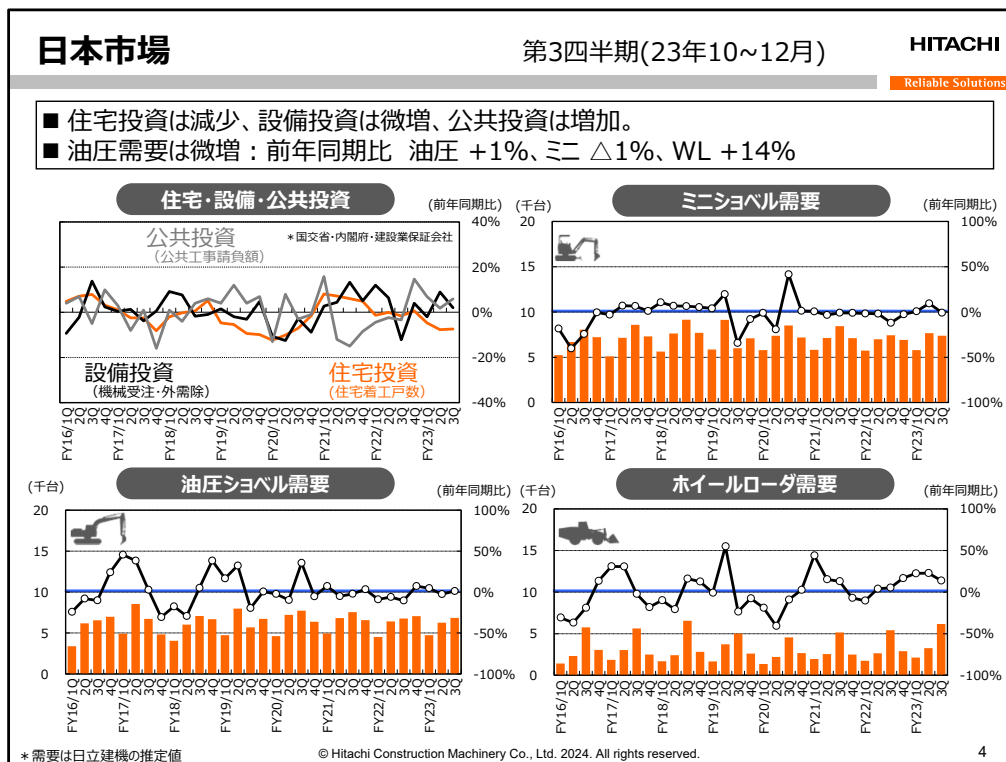
	'22	'23
合計	-2%	-14%
中国	-45%	-50%
ロシア・CIS・東欧	+2%	-20%
アフリカ	-9%	-17%
中東	+65%	-2%
中南米	+18%	-33%
その他	+15%	-20%
アジア	-2%	-18%
インド	+14%	±0%
オセアニア	+9%	-12%
アジア・大洋州・インド	+5%	-11%
北米	-8%	±0%
西欧	+7%	-15%
日本	-4%	±0%

3ページ目で、油圧ショベルの世界需要見通しについてご説明申し上げます。

23年度の需要は、前回10月の見通しから、オセアニア・中南米で減少となっており、全世界合計では、前年比14%減の21万2千台となります。

オセアニアについては特にニュージーランドでのリセッションが要因となっており、中南米については22年の景気刺激策からの反動減が要因となっております。

次に、地域別に第3四半期の結果についてご説明申し上げます。



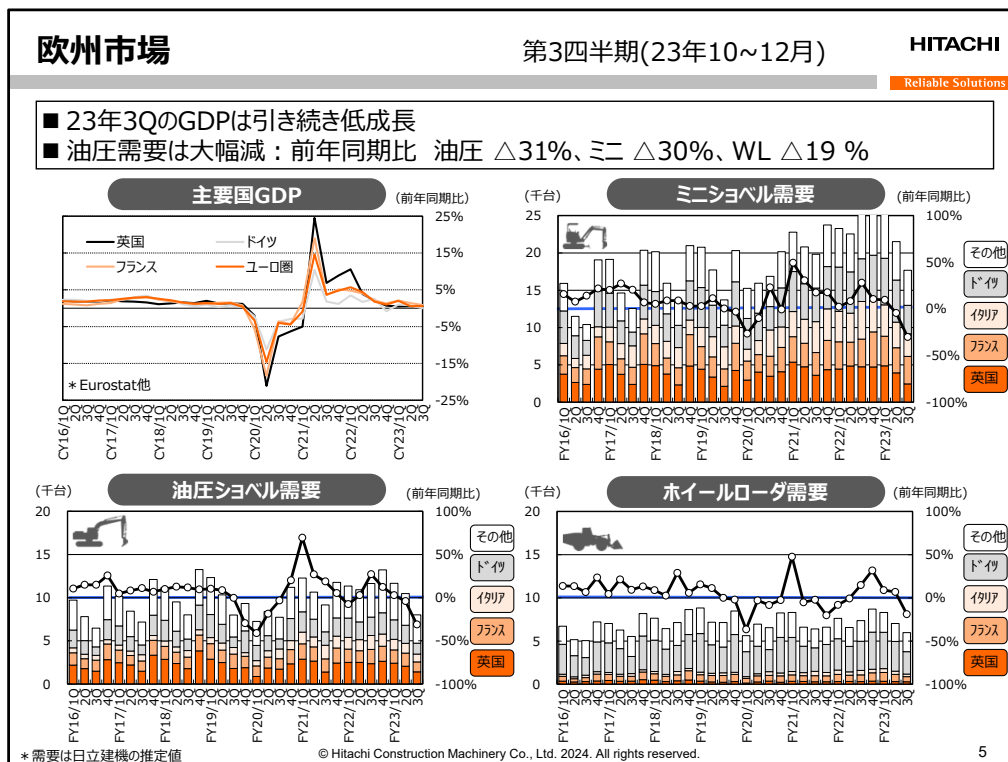
次は4ページ目。日本市場です。

左上、第3四半期の住宅投資は減少しておりますが、設備投資は微増、公共投資は増加となり市場全体としては底堅く推移しております。

左下、第3四半期の油圧ショベル需要について、足元は堅調で前年同期比で1%増となりました。

右上、ミニショベルは1%減。

右下、ホイールローダーは14%増となりました。



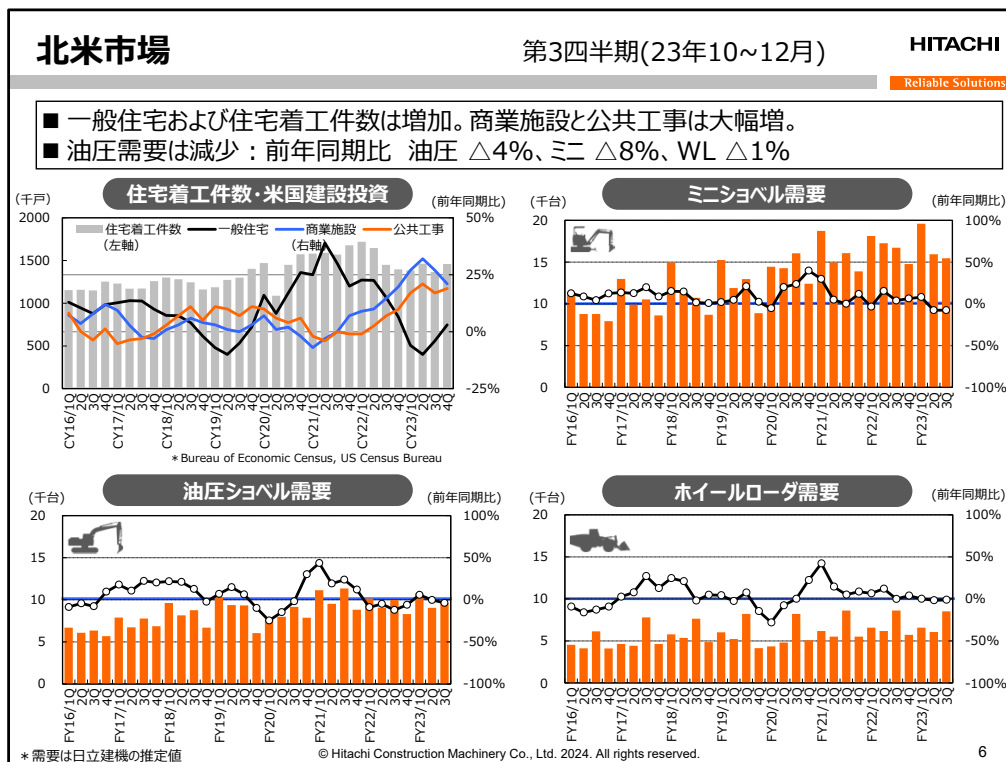
次は5ページ目。欧州市場です。

左上、主要国GDPはインフレ継続の影響もあり、ユーロ圏全体で低成長となっております。

左下、第3四半期の油圧ショベル需要は、市場の更なる減速により前年同期比で31%の大幅減となりました。

右上、ミニショベルは30%減。

右下、ホイールローダーについても19%減となりました。



次は6ページ目。北米市場です。

左上、住宅着工件数は、新築住宅販売も伸びており前期から増加しました。

一般住宅投資については、前年同期比で増加に転じております。

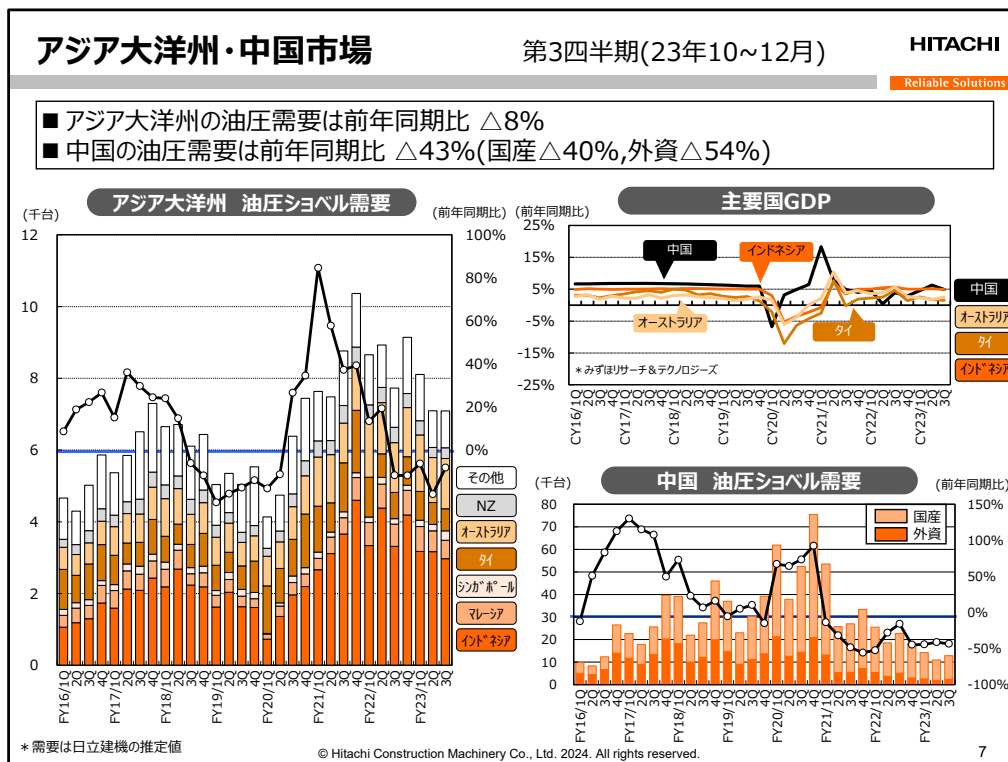
公共工事は年間を通して、前年同期比で15%以上の大幅増が継続。

商業施設投資は伸び率が鈍化したものの、引き続き前年同期比で大幅増となっております。

左下、第3四半期の油圧ショベル需要は、コロナ禍からの回復により高需要となっていた前年同期と比較すると4%減となりますが、依然として高水準が続いております。

右上、ミニショベルは8%減。

右下、ホイールローダーについては1%減となりました。

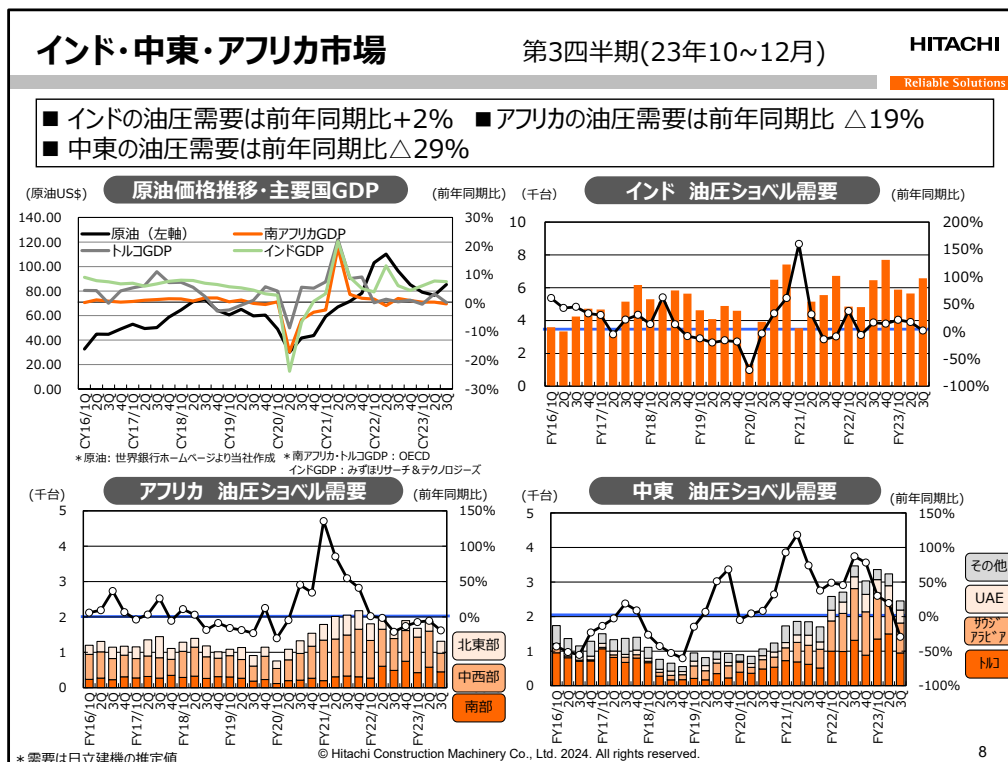


次は7ページ目。アジア大洋州、中国市場です。

右上、主要国のGDPについては、各国ともにプラス成長を維持しているものの中国については、前年の低成長からの回復が力強さを欠く状況が続いています。アジアも回復基調ではあるものの、国ごとにばらつきが見受けられます。

左側、アジア大洋州の第3四半期の油圧ショベル需要は、インドネシア・ニュージーランドなどで需要が減少し、前年同期比で8%減となりましたが、前期からマイナス幅は縮小しました。

右下、中国の油圧ショベル需要については、国産機を含めた全需要で前年同期比43%減となりました。
 内訳として国産機需要は40%減、外資は54%減となりました。



次は8ページ目。インド、中東、アフリカ市場です。

左上、原油価格はOPECプラスの減産もあり上昇しました。

主要国GDPについては、インドは増加、トルコは微増、南アフリカは微減となりました。

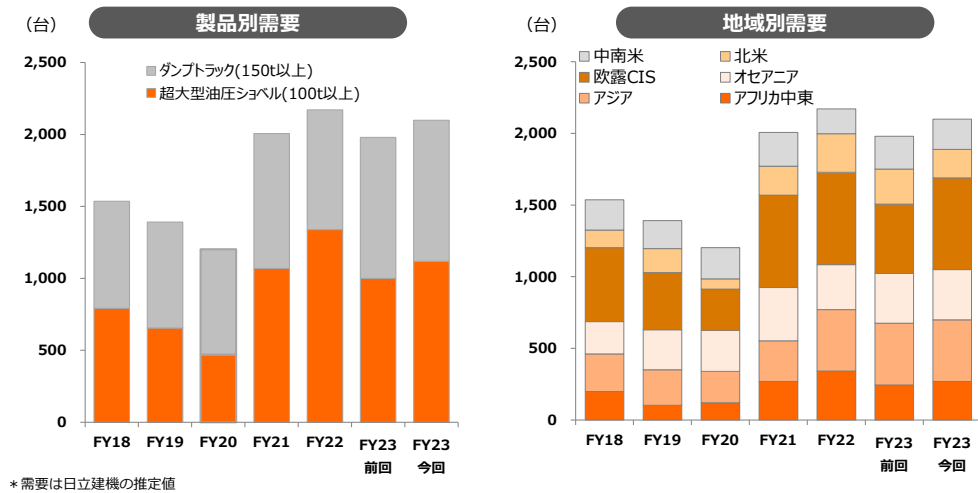
右上、インドの第3四半期の油圧ショベル需要については、前年同期比で2%増となりました。

左下、アフリカの油圧ショベル需要は19%減。

右下、中東の油圧ショベル需要は、高需要となっていた前年同期と比較すると29%減となりますが、依然として高水準が続いております。

- 超大型油圧ショベルはアジア、CIS、中東地域で100tクラスを中心に増加
- マイニング需要を前年比0~△5%に見直す（前回0~△10%）

超大型油圧ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)



次は9ページ目、マイニング機械の需要見通しです。

超大型油圧ショベルはインドネシアを含むアジア・CIS・中東地域で100tクラスを中心に需要が増加し、上方修正しました。

ダンプトラックの需要は前回見通しから変更ございません。

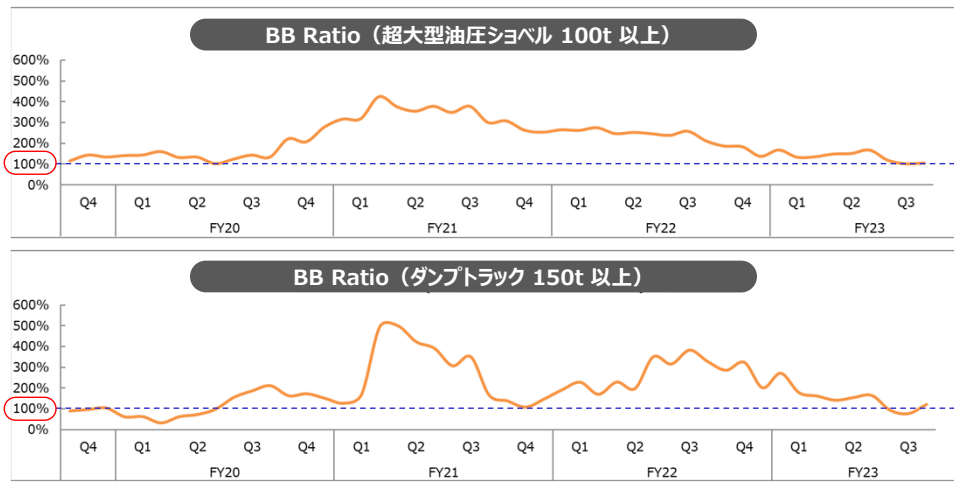
マイニング需要合計は超大型油圧ショベルの増加分を反映し、

前回の「前年比0から10%減」から「前年比0から5%減」に見直します。

補足：BB Ratio

HITACHI

Reliable Solutions



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)
当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

10

続いて10ページ目、BBレシオです。

第3四半期は受注・出荷共に順調に進みました。

超大型油圧ショベルは中国・中央アジアを中心に100tクラス、

オーストラリア・米州を中心に360tクラス以上の受注がありました。

ダンプトラックもアフリカの銅鉱山より追加受注を頂き、ショベル・トラック共に100%以上を維持しております。

トピック(1) : コンストラクション事業

HITACHI

Reliable Solutions

建設現場のゼロ・エミッション化に向けて世界中のパートナーと協創

- 欧州の建設現場で電動建機と可搬式充電設備のデモを実施(2024年2月～)
- 研究拠点「ZERO EMISSION EV-LAB」を千葉県市川市に開設(2024年5月)



電動建機と可搬式充電設備



ZERO EMISSION EV-LAB (イメージ)



東南アジアに油圧ショベルZAXIS-7Gシリーズを市場投入(2024年2月～)

- 最新の油圧システムを搭載し、大規模インフラ工事や鉱山など高負荷作業を中心にお客さまのニーズに対応
- 多彩なConSiteメニューでサービス品質をさらに向上し、機械の安定稼働に貢献



ZAXIS-7Gシリーズ

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

11

次に、コンストラクションにおける直近のトピックについてご説明します。

まず、建設現場のゼロ・エミッション化に向けて、世界中の各パートナーとの協創を推進しています。2024年2月から、すでにバッテリー駆動式ミニ・小型ショベルを投入している欧州市場において、スウェーデンやデンマークなど6カ国8カ所のお客さまの現場で、電動建機とオランダ アルフェン社の可搬式充電設備のデモを行い、実際の現場での使い勝手などを検証します。2024年5月には、新たな研究拠点「ZERO EMISSION EV-LAB」を千葉県市川市に開設します。

また、日米欧で好評をいただいている油圧ショベルの最新モデルを、東南アジア向けの仕様にし、2024年2月より東南アジア市場にも投入します。最新の油圧システムの搭載により低燃費を実現し、大規模なインフラ工事や鉱山など、高負荷な作業を中心に、お客さまのニーズに対応していきます。

加えて、多彩なConSiteメニューによってサービス品質もさらに向上します。お客さまの機械の安定稼働に貢献し、ライフサイクルコストの低減に寄与します。

トピック(2)：マイニング事業

HITACHI

Reliable Solutions

ネット・ゼロ・エミッションの実現をめざし、フル電動ダンプトラックの開発を推進

- 2024年1月に試験機が完成、本年半ばからザンビア鉱山での実証試験を開始



フル電動ダンプトラック 写真：吉成大輔



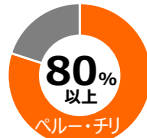
完成イメージ図



採掘から選鉱までのタッチポイントで南米市場を開拓

- ペルーの工場を2023年12月取得
2026年からミルライナー生産開始

南米の大型ミルライナー市場



鉱石の粉碎装置 ミル(左)と 内壁に装着するミルライナー(右)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

12

次に、マイニング事業における直近のトピックについてご説明します。

2024年1月、ABB社と共同で開発していたフル電動ダンプトラックの試験機が完成しました。2024年半ばから、ザンビア共和国の鉱山現場で実際の稼働負荷がかかる状態で、ダンプトラックに求められる基本性能や、バッテリー充放電サイクルなどを検証する実証試験を開始します。日立建機グループは、お客さまと協創しながら、フル電動ダンプトラックの開発を推進し、鉱山機械からのネット・ゼロ・エミッションの実現をめざします。

また、子会社のブラッドケン社が、2023年12月にペルー共和国のファンテック社から鑄造工場を取得しました。

南米のミルライナー市場はハードロックを中心とした世界最大の市場です。

中でもチリ・ペルーには、銅や金鉱山が密集しており、南米地域の80%以上の大型ミルライナー需要を占めています。

大きな需要が見込めるペルーで現地生産体制を確立し、大型ミルライナーの生産を2026年から開始します。

今回の取得は、日立建機グループが米州で取り組んでいる独自事業において、南米初の大型投資案件です。採掘から選鉱までの多様なタッチポイントで南米市場の開拓を推進します。

2. 2024年3月期第3四半期 決算説明

執行役常務兼CFO

塩嶋 慶一郎

続きまして、CFOの塩嶋でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私から、23年度第3四半期の決算、並びに23年度通年業績予想の概要をご説明します。

連結決算の概要

HITACHI

Reliable Solutions

当第3四半期は、米州を中心に堅調な売上増加に支えられ、売上収益は前年同期比13%増収、調整後営業利益は41%増益、親会社株主に帰属する四半期利益は65%増益。

(単位：億円)

		23年度 第3 Q累計		22年度 第3 Q累計		前年同期比 増減率	
売上収益		10,204		9,027		13%	
調整後営業利益 *1		(12.0%) 1,228		(9.7%) 872		41%	
営業利益		(11.9%) 1,217		(9.7%) 874		39%	
税引前四半期利益		(10.8%) 1,099		(7.8%) 708		55%	
親会社株主に帰属する 四半期利益		(7.0%) 711		(4.8%) 431		65%	
EBIT *2		(11.6%) 1,180		(8.3%) 748		58%	
為替	アメリカドル	143.2		137.0		6.2	
	ユーロ	155.2		140.5		14.8	
	中国元	19.9		19.9		0.1	
	オーストラリアドル	94.2		93.4		0.8	

*1 [調整後営業利益]は、「売上収益－売上原価－販売費及び一般管理費」により計算している利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

14

まず、P.14 『連結決算の概要』をご覧ください。

23年度第3四半期累計期間の売上収益は、米州を中心に堅調な売上増加に支えられ、前年比13%増の10,204億円となりました。

調整後営業利益は、前年比41%増の1,228億円で、利益率12.0%、営業利益は1,217億円で利益率11.9%でありました。

親会社株主帰属当期利益は、前年比65%増の711億円でありました。

堅調な需要環境に対応して、高水準の生産を維持出来たこと、加えて、米州独自展開をはじめ、マイニング、バリューチェーン事業も順調に伸長し、3Q実績としては初めて売上収益が1兆円を超え、利益ともに過去最高業績を達成しました。

なお、当累計期間の為替レートは前年比で米ドルが6.2円の円安、ユーロが14.8円、元が0.1円、オーストラリアドルも0.8円と、いずれも円安でした。

連結地域別売上収益

HITACHI

Reliable Solutions

ロシアCIS及び中国は前年同期比減収なるも、米州における独自展開が大きく増加し、為替円安効果も加わり、連結合計では1,176億円の増収。

(単位：億円)

(単位：億円)

		23年度 第3 Q累計		22年度 第3 Q累計		前年同期比	
						金額	増減率
日本		1,599	16%	1,560	17%	39	3%
アジア		949	9%	820	9%	129	16%
インド		586	6%	506	6%	80	16%
オセアニア		1,908	19%	1,700	19%	208	12%
欧州		1,273	12%	1,091	12%	183	17%
米州	北米	2,524	25%	1,973	22%	551	28%
	中南米	299	3%	243	3%	56	23%
		2,823	28%	2,216	25%	607	27%
内：独自展開		(1,623)	(16%)	(1,247)	(14%)	(376)	(30%)
ロシアCIS		171	2%	291	3%	△ 120	△ 41%
中東		215	2%	185	2%	30	16%
アフリカ		465	5%	369	4%	97	26%
中国		213	2%	291	3%	△ 77	△ 27%
合計		10,204	100%	9,027	100%	1,176	13%
海外売上収益比率		84%		83%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

15

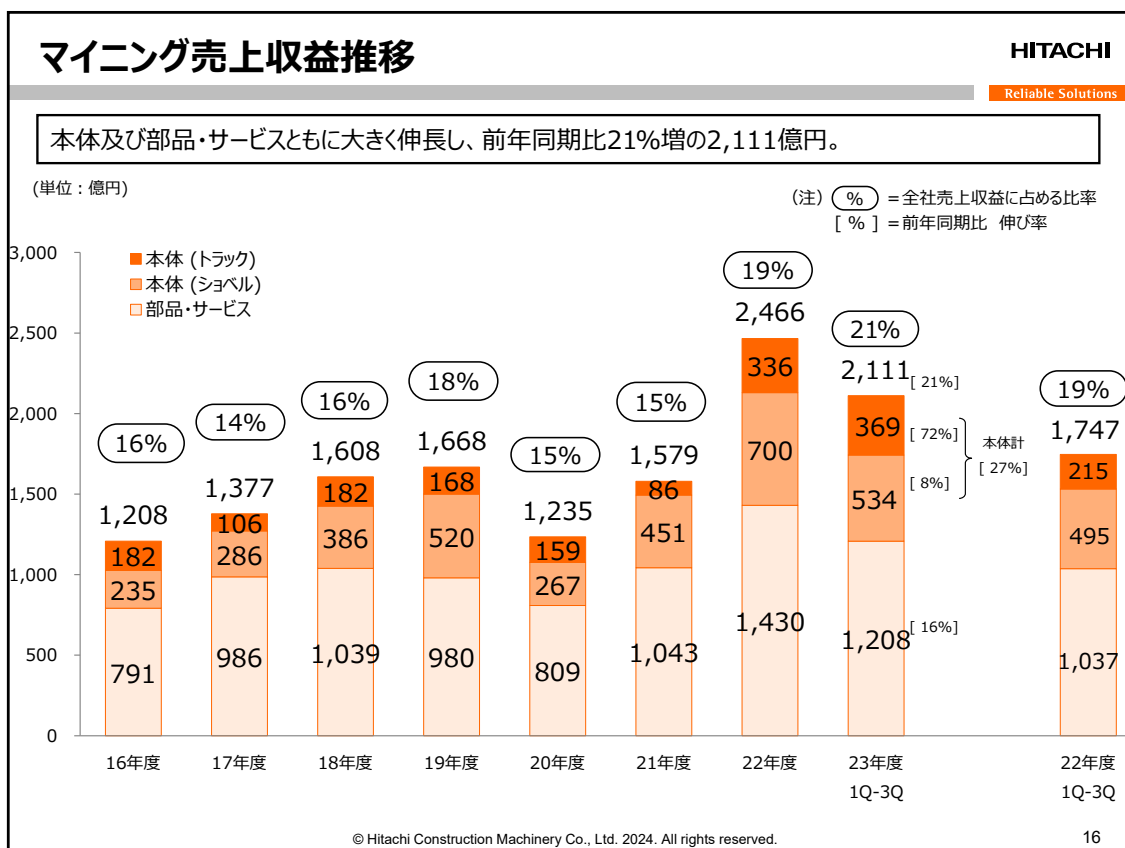
次に、P.15『連結地域別売上収益』をご覧ください。

売上収益は前年比13%、1,176億円の増収となりました。
その内数として、為替円安の影響を266億の増収要因と分析しております。

地域別では、ロシア・CIS、中国を除き、全地域で前年比増収となりました。

特に 米州においては、注力する独自展開が大きく牽引し、前年比27%もの大幅増収となりました。
また、欧州においても 需要には減速感が出はじめているものの、受注残の販売を進め、増収となった他、アジア、オセアニアでも、マイニング事業が好調で増収となりました。

結果、海外売上収益比率は、前年比1ポイント増の84%となりました。



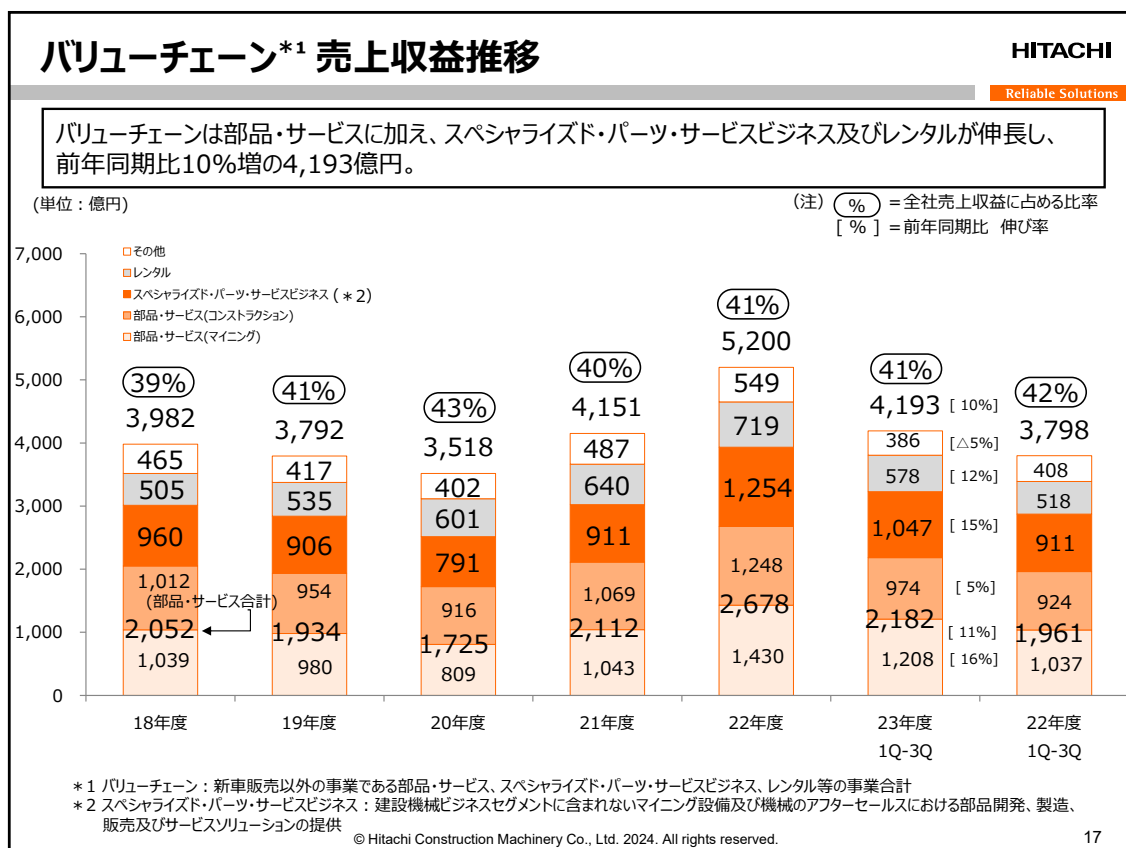
続いて P.16『マイニング売上収益推移』をご覧ください。

当四半期累計期間のマイニング売上収益は、右側から2本目の棒グラフに示した通りに2,111億円と、前年比21%の大幅な増収でした。

本体売上においては、トラック本体が主にアジア、北米の貢献で前年比72%の増収に、ショベル本体もオセアニア、中南米の貢献で8%の増収となりました。

また、部品・サービスも当社が得意とするオセアニア、アジア、アフリカの貢献が大きく、16%の増収となったことから、マイニング事業全体の第3四半期累計実績としても過去最高の収益を記録しました。

なお、連結売上収益に占めるマイニングの比率も21%と、前年比で2ポイント増加しました。



続いて、P.17は、『バリューチェーン』の状況です。

同じく右から2本目の棒グラフをご覧ください。

当四半期累計期間のバリューチェーン売上収益は、ご覧の通りに、前年比 10% 増の4,193億円でした。

為替円安影響を1%相当の増収要因と分析しており、現地通貨ベースでは前年比で9%の増収と着実に伸長してきたと捉えております。

部品・サービス収益が前年比11%の増収となった他、マイニング市場に支えられたスペシャライズド・パーツ・サービスビジネス、レンタル事業もそれぞれ15%、12%の増収を確保したことでバリューチェーン事業の第3四半期累計実績としても過去最高の収益を記録しました。

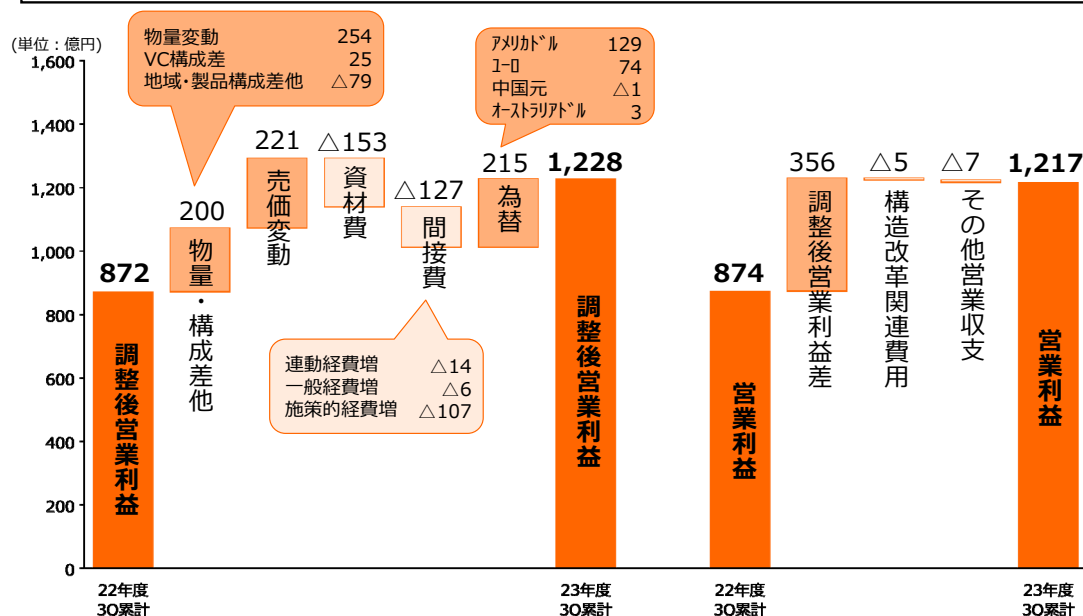
一方、連結売上収益に占めるバリューチェーン比率は41%と、前年比で1ポイント減少しました。これは新車販売が大きく伸長したためで、今後もさらにバリューチェーン事業にはしっかり取り組んで参ります。

連結損益変動要因

HITACHI

Reliable Solutions

調整後営業利益は、物量増、並びに資材費増を上回る売価改善に加え、為替影響もあり前年同期比で356億円の増益。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

18

続いてP.18は 当四半期累計期間の『連結損益変動要因』です。

調整後営業利益が、前年比356億円の増益となった要因となります。

まず、左端 物量・構成差として、200億円の増益要因と分析しております。吹出内に表記しております通り、物量増で254億、バリューチェーン構成差で25億の増益となった一方、海上運賃等の運搬費増4億を含む地域・製品構成差他79億の減益要因がありました。

また、売価変動として221億円改善を実現し、資材費153億円増加を吸収しました。

間接費は、人件費、研究開発費を主体に127億円増加しましたが、為替円安影響 215億円で吸収し、調整後営業利益は、前年比356億増益の1,228億円となりました。

ページ右側、営業利益も調整後営業利益の増益により、前年比343億の増益となる、1,217億円となりました。

当四半期累計期間の利益指標は売上収益の伸長と販売価格引き上げ等の努力が実り、何れも過去最高となりました。

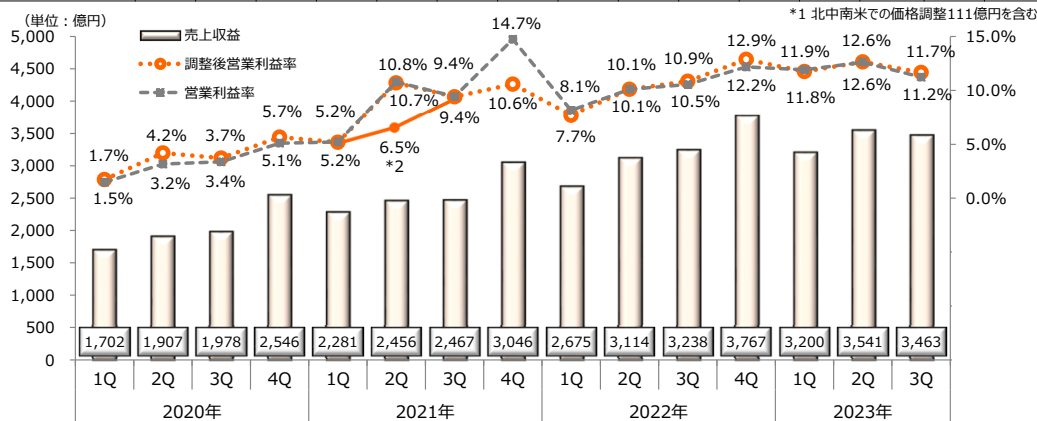
要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

HITACHI

Reliable Solutions

(単位:億円)

	2020年				2021年				2022年				2023年		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上収益	1,702	1,907	1,978	2,546	2,281	2,456	2,467	3,046	2,675	3,114	3,238	3,767	3,200	3,541	3,463
調整後営業利益	29	80	74	144	118	263	232	322	206	315	351	485	376	448	404
営業利益	25	60	67	130	119	265	233	449	218	315	342	459	382	447	389



*2 北中南米での価格調整111億円を除く

四半期別 為替レート	2020年				2021年				2022年				2023年		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
アメリカドル	107.6	106.2	104.5	105.9	109.5	110.1	113.7	116.2	129.6	138.4	141.6	132.3	137.4	144.6	147.9
ユーロ	118.5	124.1	124.5	127.7	132.0	129.8	130.1	130.4	138.1	139.3	144.3	142.1	149.5	157.3	159.1
中国元	15.2	15.4	15.8	16.4	17.0	17.0	17.8	18.3	19.6	20.2	19.9	19.3	19.6	19.9	20.4
オーストラリアドル	70.7	75.9	76.3	81.8	84.3	80.9	82.9	84.0	92.6	94.5	92.9	90.6	91.8	94.7	96.3

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

19

続いて、P.19、四半期別の業績推移です。

一番右側の23年度第3四半期をご覧下さい。

当四半期の売上収益3,463億円、並びに調整後営業利益404億円は、第3四半期として、過去最高収益・最高利益となりました。

調整後営業利益率も、折れ線グラフに示した通りに、11.7%となり、こちらも前年同期10.9%と比較して、大幅な改善となりました。

引き続き、工場の高稼働率が奏功していると分析しています。

要約連結財政状態計算書

HITACHI

Reliable Solutions

当四半期末は、棚卸資産の増加や、為替円安影響により総資産が前年度末比で1,470億円の増加。

					(単位：億円)				
	(A) 23年3Q	(B) 22年度末	(C) 22年3Q	(A)-(B) 増減		(D) 23年3Q	(E) 22年度末	(F) 22年3Q	(D)-(E) 増減
現金及び現金同等物	1,139	1,120	1,126	20	営業債務及びその他債務合計	2,759	2,745	2,695	13
営業債権	2,590	3,053	2,487	△463	社債及び借入金	5,840	5,075	5,001	765
棚卸資産	5,698	4,508	4,561	1,191	負債の部合計	10,053	9,260	9,069	793
流動資産計	10,120	9,089	8,706	1,031	(親会社所有者帰属持分比率)	(40.7%)	(40.6%)	(39.9%)	(0.2%)
非流動資産合計	7,619	7,181	7,165	438	資本の部合計	7,687	7,010	6,803	677
資産の部合計	17,740	16,270	15,872	1,470	負債・資本の部合計	17,740	16,270	15,872	1,470
非流動を含めた営業債権	3,022	3,446	2,883	△423					
棚卸資産 内訳									
本体	2,276	1,425	1,417	851	有利子負債計	(32.9%) 5,840	(31.2%) 5,075	(31.5%) 5,001	(1.7%) 765
部品	1,687	1,586	1,516	101	現金及び現金同等物	1,139	1,120	1,126	20
その他	1,735	1,496	1,627	239	ネット有利子	(26.5%)	(24.3%)	(24.4%)	(2.2%)
棚卸資産計	5,698	4,508	4,561	1,191	負債	4,701	3,955	3,874	746
手持日数 (分母は売上収益)				(単位：日)	ネットD/Eレシオ	0.65	0.60	0.61	0.05
営業債権 (非流動含む)	79	98	87	△19					
棚卸資産	149	129	138	20					
営業債務	44	47	50	△2					
正味運転資金	180	176	170	4					

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

20

続いて、P.20は23年12月末の『連結貸借対照表』です。

前年度末23年3月末比較では、営業債権が債権流動化の拡大もあって423億の縮減、棚卸資産は売上物量増への対応により、新車、並びに生産拠点の半製品在庫を主体に1,191億円の増加となりました。

なお、為替円安影響による増加相当額を夫々、98億、及び233億と分析しております。

また、非流動資産においても業容拡大のための建物、機械設備、及びレンタル資産への投資に為替換算影響も加わり、438億増加したことから、総資産は1兆7,740億円と、前年度末より1,470億増加となりました。

手持日数では、営業債権を79日と前年度末より19日短縮したものの、棚卸資産は20日延伸し、149日となりました。

この結果、正味運転資金手持日数は前年度末よりも4日延伸した180日となりました。

右側の有利子負債は、前年度末より765億増加、ネット有利子負債も746億増加の4,701億円となりました。

米州、マイニング、バリューチェーンと、事業拡大とともに、BS全体の規模は膨らんでおりますが、各種の施策で、コントロールできているものと考えています。

結果、資本合計は7,687億円で、親会社所有者帰属持分比率は40.7%、ネットD/Eレシオは0.65でした。

連結キャッシュ・フロー

HITACHI

Reliable Solutions

営業キャッシュ・フローは286億円のポジティブとなるが、フリー・キャッシュ・フローは△163億円のネガティブ。

(単位：億円)

	23年度 第3Q累計		22年度 第3Q累計		前年同期比 増減額	
四半期利益		790		457		333
減価償却費	1,299	509	924	468	375	41
売掛金及び受取手形の増減		536		343		194
棚卸資産の増減	△ 415	△ 974	△ 294	△ 818	△ 122	△ 156
買掛金及び支払手形の増減		23		181		△ 159
保証債務の履行による支出		0		△ 535		535
その他		△ 597		△ 555		△ 42
営業活動に関するキャッシュ・フロー		286		△ 460		746
営業キャッシュ・フロー・マージン率		2.8%		△ 5.1%		7.9%
投資活動に関するキャッシュ・フロー		△ 449		△ 294		△ 155
フリー・キャッシュ・フロー		△ 163		△ 753		591
財務活動に関するキャッシュ・フロー		159		947		△ 788

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

21

続いて、P.21は『連結キャッシュ・フロー』です。

当四半期 累計期間の営業キャッシュ・フローは、286億円のポジティブとなりました。棚卸資産増により運転資金が膨らんだものの、FFO増加が貢献し、前年比で746億円の改善となりました。

投資キャッシュ・フローは、米州事業拡大の為の有形・無形固定資産取得などが増えたことから、前年比155億増加の449億円の支出となり、フリー・キャッシュ・フローは、163億円のネガティブとなりました。

要約連結損益計算書(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

前回10月に公表した業績見通しを修正し、売上収益は前年比9%の増収、調整後営業利益は26%の増益、親会社株主利益に帰属する当期利益は25%の増益を見込む。

注. < >内は23年10月公表値

(単位:億円)

	23年度		22年度 実績	前年比	
	予想			金額	増減率
売上収益	<13,600>	14,000	12,795	1,205	9%
調整後営業利益	<11.8%>	(12.2%)	(10.6%)	(1.6%)	26%
	<1,600>	1,710	1,357	353	
営業利益	<11.5%>	(11.2%)	(10.4%)	(0.8%)	18%
	<1,560>	1,570	1,333	237	
税引前当期利益	<11.1%>	(10.1%)	(8.8%)	(1.3%)	26%
	<1,510>	1,420	1,127	293	
親会社株主に帰属する当期利益	<7.2%>	(6.3%)	(5.5%)	(0.8%)	25%
	<980>	880	702	178	
EBIT	<1,612>	1,527	1,190	337	
通貨	1Q-3Q 実績	4Q 予想	年度 予想	22年度 実績	前年比
アメリカドル	143.2	140.0	142.2	135.4	6.8
ユーロ	155.2	150.0	153.5	141.0	12.5
中国元	19.9	19.5	19.7	19.7	0.0
オーストラリアドル	94.2	95.0	94.4	92.7	1.7
1株当たり配当金 *1	未定			110円	-

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%~40%を目安に安定的かつ継続的に実施することを基本として株主利益の最大化を図ります。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

22

続いて、今回の23年度業績予想をご説明します。

スライドP.22 『要約連結損益計算書(予想)』をご覧ください。

これまでご説明して参りました当四半期累計期間の実績、需要環境を鑑み、今年度 業績予想については前回10月時の予想を修正します。

具体的には 本スライドの通り、売上収益1兆4,000億円、調整後営業利益1,710億円、営業利益1,570億円と過去最高業績へ上方修正します。

一方で、今回、構造改革費用として、第4四半期に特別損失100億円を織り込み、税引前当期利益1,420億円、親会社株主に帰属する当期利益880億円へ下方修正します。

なお、調整後営業利益率は 過去最高の12.2%を見込みます。

前提となる第4四半期予想為替レート につきましては、直近の金融機関予想を鑑み、米ドル 140円、ユーロ 150円他、ご覧の通りに 前回レートを円安方向に修正しました。

第4四半期においても、欧州、アジアでの需要減速を慎重に織込みつつ、注力する米州事業、マイニング、及びバリューチェーン事業を着実に伸長して、トップラインの拡大をめざします。また、同時に事業構造の改革を推進していきます。

なお、P.27に、参考資料1. として、第4四半期の売上収益と調整後営業利益に影響する為替感応度を掲載しましたので、ご参考願います。

要約地域別売上収益(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

ロシアCIS、中国は前年比減収なるも、米州における独自展開が大きく増加し、為替円安効果も加わり、連結合計では1,205億円の増収。

(単位：億円)

		23年度 予想		22年度 実績		前年比	
						金額	増減率
日本		2,262	16%	2,240	18%	22	1%
アジア		1,252	9%	1,227	10%	26	2%
インド		743	5%	731	6%	12	2%
オセアニア		2,517	18%	2,254	18%	263	12%
欧州		1,769	13%	1,649	13%	120	7%
米州	北米	3,454	25%	2,741	21%	712	26%
	中南米	384	3%	383	3%	1	0%
内:独自展開		3,838	27%	3,125	24%	713	23%
		(2,387)	(17%)	(1,820)	(14%)	(567)	(31%)
ロシアCIS		295	2%	374	3%	△79	△21%
中東		334	2%	250	2%	84	34%
アフリカ		660	5%	547	4%	113	21%
中国		330	2%	400	3%	△70	△18%
合計		14,000	100%	12,795	100%	1,205	9%
海外売上収益比率		84%		82%			

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

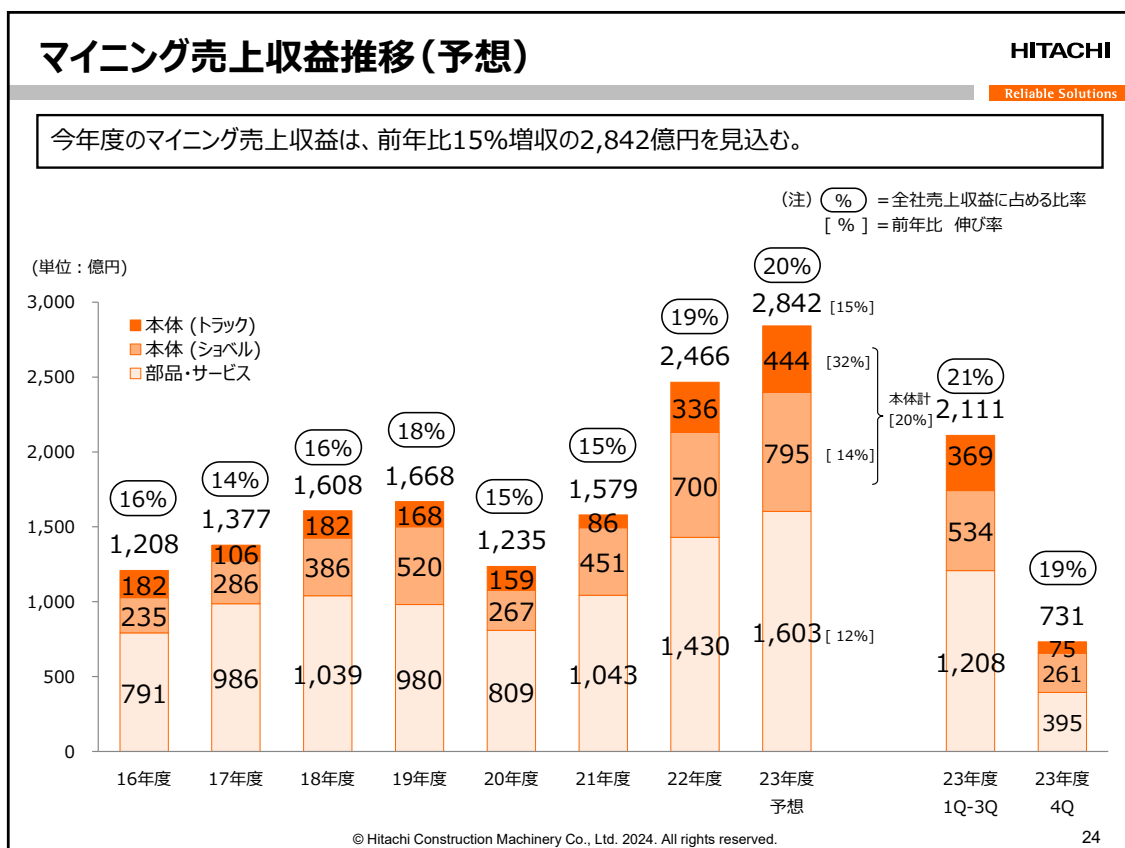
23

続いて、P.23は『地域別売上収益の予想』です。

当年度売上収益見通しについては、前年比1,205億円増収の14,000億円に修正します。なお、為替円安影響を397億の増収要因と分析します。

中国、ロシア・CISで大きく減収を見込みます。
一方、北米、オセアニア、アフリカで、増収を見込みます。

なお、海外売上高比率は、前年比 2 ポイント増の84%を見込みます。



次に、P.24は『マイニング売上収益予想』です。

本年度のマイニング売上は、前年比15%増収の2,842億円を見込み、年度通期でも過去最高収益の更新をめざします。

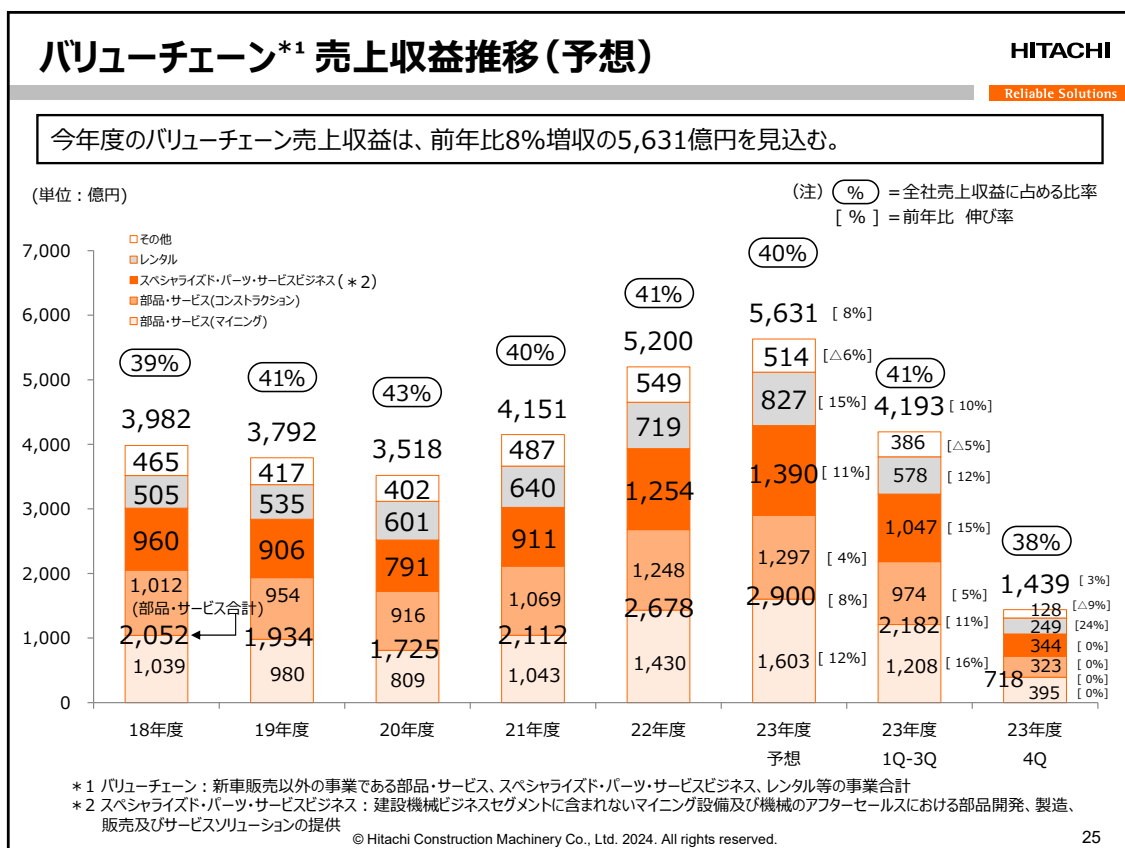
なお、前提為替レートにより、42億の増収影響を含んでいます。

機械本体はトラックとショベル合計で、前年比20%の増収を見込む他、部品・サービスも同12%増収の予想です。

売上構成比は、前年比1%増の20%を見込みます。

なお、P.28に参考資料 2. として地域別の『マイニング売上収益内訳』を掲載していますので、ご参考願います。

アジア・大洋州にて 前年比231億円の増収、米州においても同82億円の増収を見込みます。



続いて、P.25『バリューチェーン売上収益推移(予想)』をご覧ください。

本年度のバリューチェーン売上収益は、前年比8%増収の5,631億円を見込み、同じく年度通期でも過去最高収益の更新をめざします。
なお、前提為替レートにより 94億円の増収影響を含んでいます。

個々には部品・サービスを、コンストラクション、マイニング向け合計で前年比8%増収の2,900億円、レンタルにおいても同15%増の827億円をそれぞれ見込みます。

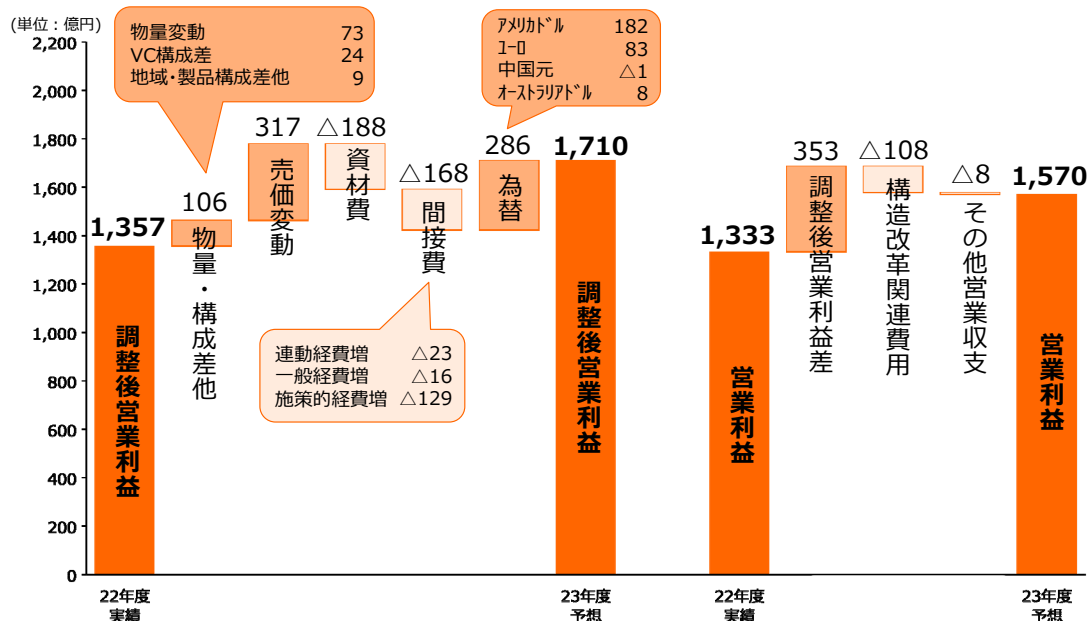
なお、売上構成比は、新車本体売上の増加幅の増大により、前年比1%減の40%となる見込みです。

連結損益変動要因(予想)

HITACHI

Reliable Solutions

今年度の調整後営業利益は、物量増、並びに資材費増を上回る売価改善に加え、為替影響もあり前年比353億円の増益を見込む。



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

26

ご説明の最後となります。P.26『連結損益変動要因(予想)』をご覧ください。

当年度調整後営業利益が前年比で353億の増益を見込む1,710億円となる要因をご説明します。

まず、物量・構成差として106億の増益を織込みます。
内訳として、物量変動で73億、バリューチェーン構成差で24億、地域・製品構成差他で9億の増益を織込みます。

また、売価変動317億の改善と、為替円安影響による増益効果286億により、資材費増188億と間接費増168億を吸収し、調整後営業利益で前年比353億円の増益を見込みます。

ページ右側、営業利益でも、調整後営業利益の増益により、構造改革関連で140億を織込むも、前年比で237億の増益となる1,570億円を予想します。

次ページ以降に参考資料を3枚付けておりますので、ご参照下さい。

お陰様で、今年度は中計初年度として、1兆4,000億円のトップライン、調整後営業利益率12%台の達成を見通せるようになりました。
欧州やアジアで市況の減速感が出てきており、不透明な事業環境下ではありますが、注力してきた事業はいずれも好調であり、事業構造改革も図りつつ、今後とも更なる成長に向けて取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

以上でご説明を終わります。ありがとうございました。

参考資料 1：為替レート及び為替感応度

HITACHI

Reliable Solutions

第 4 四半期の予想為替レートは、前回からドル、ユーロともに5円の円安に修正。

為替レート及び為替感応度

(単位:億円)

通貨	為替レート				感応度(4Q)		
	23年度			22年度 実績	基 準	売上収益	調整後 営業利益
	1Q-3Q 実績	4Q 予想	年度 予想				
アメリカドル	143.2	140.0	142.2	135.4	1円円安になった場合	10	7
ユーロ	155.2	150.0	153.5	141.0	1円円安になった場合	3	1
中国元	19.9	19.5	19.7	19.7	0.1円円安になった場合	1	0
オーストラリアドル	94.2	95.0	94.4	92.7	1円円安になった場合	6	1

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

HITACHI

Reliable Solutions

(金額 : 億円)

		23年度予想			22年度実績			差額		
		1-3Q累計	4Q	年度	1-3Q累計	4Q	年度	1-3Q累計	4Q	年度
米州	ショベル	233	122	355	209	118	327	24	4	28
	トラック	75	20	95	32	9	41	43	11	54
	計	308	142	450	242	127	368	67	15	82
欧阿中東	ショベル	221	134	354	269	88	357	△ 48	45	△ 3
	トラック	230	89	320	171	99	270	59	△ 10	50
	計	451	223	674	440	187	627	11	36	47
アジア・大洋州	ショベル	901	273	1,174	723	255	978	179	18	196
	トラック	429	74	503	327	141	468	102	△ 67	35
	計	1,331	347	1,677	1,050	396	1,446	281	△ 50	231
中国	ショベル	11	13	24	6	6	13	5	6	11
	トラック	0	0	0	1	0	1	△ 1	△ 0	△ 1
	計	11	13	24	7	6	14	4	6	10
日本	ショベル	6	7	13	8	2	10	△ 2	4	2
	トラック	4	0	4	0	0	0	4	△ 0	3
	計	10	7	16	8	2	11	2	4	6
合計	ショベル	1,372	548	1,920	1,215	470	1,685	157	78	235
	トラック	738	183	922	532	249	781	207	△ 66	141
	計	2,111	731	2,842	1,747	719	2,466	364	12	376

参考資料 3 : セグメント情報

HITACHI

Reliable Solutions

下記スペシャライズド・パーツ・サービスビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費として23年度第3四半期累計実績には8億円、23年度予想にも11億円をそれぞれ含む。

(単位：億円)

23年度 第3Q累計	報告セグメント		調整額 *2	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	スペシャライズド・パーツ・ サービスビジネス*1		
売上収益	9,157	1,090	△ 43	10,204
調整後営業利益	12.2% 1,117	10.2% 111	-	12.0% 1,228

(単位：億円)

23年度 予想	報告セグメント		調整額 *2	連結財務諸表 計上額
	建設機械 ビジネス	スペシャライズド・パーツ・ サービスビジネス*1		
売上収益	12,609	1,434	△ 43	14,000
調整後営業利益	12.4% 1,560	10.4% 150	-	12.2% 1,710

*1 2023年度より、「ソリューションビジネス」としていたセグメント名称を「スペシャライズド・パーツ・サービスビジネス」に変更しました。
セグメント名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

*2 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2024. All rights reserved.

29

日立建機グループでは、持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標のうち、10項目の重点目標を設定しています。
当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

【商標注記】

「AERIAL ANGLE」「ConSite」「Solution Linkage」「ZCORE」は、日立建機株式会社の登録商標です。

2024年1月26日

 日立建機株式会社